

O. 骨、関節

- 248～252 27日（火） 16：50～17～40pm 第2会場
(異常集積)
- 253～257 29日（木） 10：50～11～40pm 第3会場
(応用)
- 258～261 28日（水） 10：40～11：20am 第5会場
(基礎的検討)
- 262～267 29日（木） 9：00～10：00am 第5会場
(ラウンドテーブル)
(骨腫瘍)

248 $^{99m}\text{Tc}-\text{MDP}$ 骨シンチグラフィーで両腎に著明な高度集積を示した3例
自治医科大学放射線医学教室

中間昌博、菅原 正、宗近宏次、岸田敏博

$^{99m}\text{Tc}-\text{リノ酸化合物による骨シンチグラフィーで腎イメージの臨床的評価$ について諸家の報告があり、我々の日常診療においても予測し得なかった腎病変を指摘出来ることもまれではない。しかし、報告の多くは腎腫瘍、腎のう胞、水腎症などの限局性欠損あるいは集積を指摘したものである。1978年Lutrinにより悪性病変で化学療法を行った小児骨シンチグラフィーで両腎に著明な高度集積を示した症例が報告された。我々も $^{99m}\text{Tc}-\text{MDP}$ 骨シンチグラフィーで同様の所見を呈した3例を経験したので報告する。

症例1. 69才の男性。悪性リンパ腫、化学療法としてCQ 3.2mg、VCR 1.7mg、PSL10mg、2クール目が終了した3日後に骨シンチグラフィーが施行された。

症例2. 49才の男性。急性リンパ性白血病、何度も再燃をくり返し、骨シンチグラフィーが施行される5日前にVCR2mg、MTX10mg、PSL30mgが投与されている。

症例3. 53才の女性。原発性肺癌、初診時に骨転移を認め、化学療法が行われた。VCR1mg、EX50mg、MTX50mg、8クール目が終了した3日後に骨シンチグラフィーが施行された。

以上3例とも骨シンチグラフィーで両腎全体に著明な高度集積を示した。3例とも化学療法が行われた5日以内に骨シンチグラフィーが施行されている。共通する制癌剤としては VCRであった。MTXが2例に用いられた。制癌剤による腎のtoxicityがその基盤として考えられた。